

りっぷる Ripple

エスコープ大阪機関紙
第260号
24. 9 .23

表紙

・『旬菜セット』で地場野菜と大阪の農地を守る！

P2

・地場野菜『旬菜セット』のこれまでとこれから

P3

・活動報告 「エコロ制度おすすめ」班訪問／「エコロでつなごう 地域のつどい」／ナチュラルライフくらぶサークル

P4

・W.Co紹介 「ワーカース・コレクティブ オアシス」
・理事会報告
・おたよりネット
・編集後記

『旬菜セット』で地場野菜と大阪の農地を守る！

農林水産省の調べでは、国内の田畑の面積は1961年の約608万ヘクタールをピークに減少し、2021年には約434万ヘクタールとなっています。エスコープ大阪は約半世紀にわたり、地場野菜の取り組みを続けています。「安心して食べられる野菜がほしい」という組合員の思いで始まった取り組みは、今では「大阪の農地を守る」という役割も果たしています。生産者と組合員が共に続けてきた地場野菜『旬菜セット』の取り組みについて、生産者「菜食ファーム」（堺市・和泉市・河内長野市・大阪市）代表の今野正章さんにお話を伺いました。
(聞き手:消費担当常務理事 山路 登葉)



菜食ファーム 代表

今野正章さん

生産者と組合員が守ってきた地域の農地

山路 私の実家の周辺は田畑が宅地や商業施設に変わってきています。今野さんの圃場(堺市北区)の周辺は、幹線道路がすぐ近くにありながら農地は維持されていますね。

今野 私が住む堺市では農地を維持する大切さを行政も理解しており、市の地域計画として農地を守る取り組みがすすんでいます。私も参加している堺市の「農業委員会」では、調整農地に関わる後継者などの情報について農家は5年後、10年後の将来像を描き、2025年3月までに市に書面を提出することになっています。

菜食ファームはこの夏新たなメンバーを迎え、若手からベテランまで現在21名が在籍しています。エスコープ大阪の組合員と生産者が長年続けてきた地場野菜の『旬菜セット』の取り組みは、食の安全・安心以外にも大阪の農地を守るうえで大きな役割を果たしてきたのではないのでしょうか。

山路 大阪府のデータ(2021年度)では、菜食ファームのメンバーの半数以上の圃場がある堺市の田畑の耕地面積やエコ農産物の栽培面積は府内トップクラスですね。先ほど看板を見かけまし

たが、今野さんの農地は災害時の避難場所にも指定されています。食を供給する機能だけでなく、災害時や食育の面でも農地を身近に持つことは大変意味があると思います。

今後も安心して食べられる野菜を生産者と一緒に考える

山路 2025年秋から生活クラブ関西6生協では、登録制で毎週届く「セット野菜」の取り組みを統一する予定です。生産者として準備をしていることはありますか。

今野 これまでエスコープ大阪と約束してきた『旬菜セット』の栽培基準(農薬使用は大阪府のエコ農産物栽培基準の2分の1以下・除草剤不使用・化学肥料不使用)から関西6生協で決めた統一基準に変わり、栽培期間中に農薬を使わずに野菜を作る努力が求められます。農薬を使わないことは組合員の皆さんの食の安全・安心を望む声に伝えるだけでなく、生産者の健康を守ることに良いことです。

今後は農薬を使わずに作れる野菜の品種や時期などを検討しながら作付けをしていくことになりませんが、「栽培期間中農薬不使用」という点に重きを置きすぎると、出荷量が十分に確保できるかという課題が出てきます。野菜の出荷量は農家の収入に直結します。菜食ファームでは、若手の生産者が増えていきます。彼らが農業で十分に食べていけることも、一方では大変重要なことで、大きな課題であると認識しています。

山路 高齢化などによる離農の問題や夏の暑さなど、野菜が作れなくなる要因が増えてきている中で、持続可能な農業にとって大切なことを組合員も一緒に考えて考えなければなりません。

今野 夏の暑さだけではありません。豪雨災害も増えており、定植のタイミングを逃したり、苗をダメにしてしまったりする事例が近年増えてきています。また「ミニミキイロアザミウマ」などこれまで圃場で確認されていなかった害虫も増えてきています。夏の虫は特に厄介です。

菜食ファームとしては、大阪府の農業試験所から資料を入手して、耕種的防除法に関するさまざまな情報をメンバーで共有し、組合員の皆さんに安心して食べてもらえる野菜作りに今後も努めていきます。

山路 全国的に第一次産業の担い手や後継者が不足していますが、気候危機による農作物の作りにくさも追い打ちをかけ、耕作放棄地や田畑の転用が私たちの身近でも増えてきています。これからも、生産者と共に、食の安全・安心や持続可能な生産と消費を目指し、地場野菜の取り組みをすすめていきます。

※1 調整農地：市街化を抑制するために農地をなるべく残すように指定された農地

※2 生活クラブ関西6生協：エスコープ大阪、生活クラブ大阪、生活クラブ都市生活、生活クラブ滋賀、生活クラブ京都エル・コープ、生活クラブ奈良

※3 耕種の防除法：作物の栽培法、品種あるいは圃場の環境条件などを適切に選択して、病害虫が発生しにくい条件を整え、発生抑制や被害軽減をおこなう方法。

地場野菜『旬菜セット』の これまでとこれから

「安心・安全・新鮮・おいしい旬の野菜を得るために近郊農家を育てよう!」と組合員が考え、エスコープ大阪が地場野菜の取り組みを始めたのは今から約50年前のことです。当初はエスコープ大阪の一部エリア(地区)での取り組みでしたが、徐々に活動を広げてきました。1978年には「生協農園委員会」を発足し、生産者の「愛菜倶楽部(現在の菜食ファーム)」と共にエスコープ大阪全体の取り組みにつなげ、現在の『旬菜セット』があります。



南河内地域委員会の畑訪問(2024年6月実施)

生活クラブ関西6生協の 「セット野菜」統一に向けた エスコープ大阪の取り組み

1. 畑訪問

(1) 地域委員会

2023年度の「週末余剰野菜」の取り組みに引き続き、2024年度も各地域委員会が身近にある「菜食ファーム」の畑訪問を実施し、地場野菜の取り組みについて組合員の理解を深めます。

(2) 消費委員会

「菜食ファーム」の全生産者の畑を訪問し、畑の様子を「消費委員会ニュース」で組合員に伝え、『旬菜セット』の利用を推進します。作付けを依頼した野菜や実験栽培の生育状況を確認します。

2. 実験栽培

関西6生協の「セット野菜」統一の栽培基準が「栽培期間中農薬不使用」となるため、新たな基準への挑戦、そして作付けしたことがない品種の実験栽培に「菜食ファーム」と取り組みます。実験栽培の野菜は、にんにく、万願寺とうがらし、アレッタなどアンケートと共に『旬菜セット』登録の組合員に届け、組合員の声を反映させます。



実験栽培のアンケート

関西6生協の「セット野菜」統一に向けて、現セット野菜の登録者数を今以上に増やすことを各生協の理事会で決定しています。現在エスコープ大阪の『旬菜セット』の登録率は約20%ですが、2025年秋の統一スタート時までに約3%登録率を上げて22.7%に、さらに1年後には25.0%を目標にしています。自分たちが住む地域で手に入る『旬菜セット』の魅力を生産者に伝え、目標達成に向けて、登録を呼びかけます!

作り手と食べ手が 共に作る『旬菜セット』

エスコープ大阪ではこれまで、「欲しいもの(制度)がなければ自分たちで作ろう!」を合言葉に、食や環境、福祉の分野においてさまざまな取り組みを展開し、地域や社会の課題解決に取り組んできました。食の分野においては、お茶、豚肉など、安全・安心を求めて組合員が生産者に働きかけながら、生産者と共に自分たちが望む消費材を作ってきました。

地場野菜の『旬菜セット』もそのひとつです。野菜の作付け量や品種、端境期の対策、そして栽培に使用する農薬などについて「菜食ファーム」の生産者と組合員が話し合いの場を持ち、『旬菜セット』を作っています。

近年では気候危機の影響を受けて、作付け

会議の中で生産者からの生産状況の報告や組合員の意見などをふまえ、秋にきゅうりを出荷したり、これまで作ることがない品種に変更するなど、新しい取り組みにも挑戦しながら地場野菜の安定供給を目指しています。

生活クラブ関西6生協で 「セット野菜」を統一します

生活クラブ関西6生協では、持続可能な生産と消費に向けて「関西青果政策」を掲げ、2025年の秋から「セット野菜」を統一する予定です。2024年度をその準備段階の年として、エスコープ大阪では消費委員会と地域委員会で活動をしています。

※生活クラブ関西6生協: エスコープ大阪、生活クラブ大阪、生活クラブ都市生活、生活クラブ滋賀、生活クラブ京都エルコープ、生活クラブ奈良

『旬菜セット』を登録しよう!

●『旬菜セット』とは

堺市、和泉市、河内長野市等の「菜食ファーム」生産者が栽培する新鮮でおいしい野菜のセットです。生産者と作付け会議をし、食べる約束をした定期予約の取り組みです。登録すると毎週届きます。

●栽培基準

栽培期間中農薬不使用または大阪府エコ農産物基準の1/2以下の減農薬、有機肥料で栽培しています。「(有)石井養豚センター」の堆肥も使用しています。

●セットの種類

①ファミリーセット(右写真)

7~9品目ぐらい(価格:1,500円前後)
4~5人家族が1週間で食べ切れる量。

②ミニセット

3~5品目ぐらい(価格:1,000円前後)
少人数の家庭や初心者におすすめ。

★野菜のレシピや畑だより、お届け予定を掲載した「菜心版ニュース」と一緒にお届けします。

申し込み方法は簡単!!

配達担当者に伝えるか直接電話(072-293-4660)で、OCR注文書やインターネットでの申し込みはできません。



2024年7月お届けの『ファミリーセット』

泉北ニュータウン地域 「エコロ制度 おすすめ」班訪問

7月1日(月)~18日(木)

泉北ニュータウン地域理事
新家 晴子

組合員同士の共感や絆を感じた エコロ班訪問

7月は「エコロ制度」の取り組み月間でした。泉北ニュータウン地域でも地域委員会一丸となって、地域内の班を訪問してエコロ制度について直接伝え、話をしました。



訪問の前に聞いていた班の配達時間が変わっていたり、個配に変わっていたり、当番さんだけの受け取りだったり、訪問が想定通りにいかないこともありましたが、「皆で助け合っているから、私たちの班にはエコロ制度はいらない」「もうすでに、エコロ制度が整っている」という声を聞くこともでき、頼もしく感じました。

委員会のメンバー同士、グループラインで毎回結果報告を共有し、大雨や猛暑の中、無事訪問を終えた達成感を味わうこともできました。地域委員会の絆も深まったような気がします。

今回の訪問で、すぐに加入という人はほとんどなく、今は必要ないけどいずれは加入したいという方がほとんどでした。しかし、エコロ制度を実際に活用して体験した人の話を聞

いたり、班の中で加入している人がいると興味を持ってもらうことができました。皆さん暑い中なのに、私たちの話を真剣に聞いてくれて、感謝の気持ちと共に組合員同士の共感や絆を感じることができました。また、地域

河内長野・大阪狭山地域 エコロでつなごう 地域のつどい

7月27日(土)
SAYAKAホール
中会議室
(大阪狭山市)

河内長野・大阪狭山地域理事
沼田 典子

エコロ制度 地域からみえてきた課題…

組合員同士のたすけあいのしくみである「エコロ制度」は、開始から9年目を迎えるようになっていますが加入者が増えています。今年度は地域活動として加入者の拡大に全地域で取り組むことになりました。私たち

生協に加入された」というお話が参加者からありました。「エコロ制度の月1000円の拠出金で、配達日に急に留守をしても翌日まで消費材を預かってもらったり、重たいものを自宅まで運んでもらったりといった頼みごとができる」「顔なじみになればその他の困りごとでも利用できるようになるのでは」「今まで人との関わりがわずらわしいと思っていたが、この頃不安になって必要では、と思いつめた人もいたのではなか」と、意見交換もしました。

当日は、すでにエコロ制度を活用しているエコログループの組合員に来てもらい、経緯や具体例、感じていることなどを話してもらいました。

近所に組合員の顔なじみを作り、地域のつながりを作っていくための道具がエコロ制度です。個配の組合員も近くの組合員と顔なじみになり、ケアのやりとりができるよう、手助けをしていきたいという思いを共有しました。今回の取り組みを通してますます近所同士のつながりの必要性を感じました。加入の少ない子育て世代にも「子育てひろば」などで声を掛けて増やしていきたいと思

エッコロ制度は、おおぜいの組合員の加入と利用、そしてお互いさまのたすけあいの気持ちでより良い制度になります。自分が直接助けに行くことはできないけれど、「1000円で助かる人がいる」と言って加入した方もいました。これからも引き続き、おすすめしていきたいです。

名が新たに加入しました。

ナチュラルライフくらぶ サークル

毎月火曜日 または
金曜日の集まれる日
エスコープ大阪 本部
(堺市南区)

ナチュラルライフくらぶ
サークル代表 辻本 浩子

安全安心な暮らし、 私たちと考えませんか？

皆さん忙しい中での参加なので、時には遅れたり途中早めに帰ったりと、ゆるい感じでやっています。

2011年に結成し、今年で13年になります。2015年に私が代表のバトンを受け、現在に至ります。コロナ禍は休んでいましたが、2023年6月から再開しました。

活動のコンセプトは、「日々の生活を安全安心に暮らす」です。これまで

の活動を紹介しますと、小豆カキロ作り、ホウ酸団子作り、虫よけスプレー作り、蜜蝋ラップ作り、ハンドクリーム作り、キムチ作り、金山寺みそ作り、クリスマス鶏の丸焼き作りなどで、ナチュラルな素材で簡単に作れるものを作り作りました。

ラインを使って、「お金の勉強」もしました。毎回、メインとなる活動をした後は、エスコープ大阪の消費材の中からお茶菓子を用意しておしゃべり会をしています。

「活動した日は、とても元気がもらえるので、家に帰ってからパワーアップして家事がはかどる」というのがメンバーの共通した感想です。この活動に興味を持たれた方は、一度のぞきにきてください。



「おおぜいの私」がつくるエスコープ大阪 vol.20 『2025年は協同組合年』

生活協同組合であるエスコープ大阪の組織運営について、隔月で連載します。

●2012年に続いて2回目

2023年11月に国連総会は、社会開発における協同組合に関する新たな決議を採択し、2025年を2012年に続き2回目の「国際協同組合年」(IYC)とすることを宣言しました。

この決議は協同組合を振興し、持続可能な開発目標に向けた実践と社会・経済開発全般に対する協同組合の貢献に対する認知を高める方法として、すべての加盟国、国連、その他すべての関係者が、国際協同組合年を活用することを促しています。

2012年の時は「生活クラブ連合会」としても積極的に参加し取り組み、持続可能な開発の推進における協同組合の重要な役割に対する認知を高めることに大いに貢献しました。

「国際協同組合同盟」(ICA)会長は、協同組合に関する

新たな国連決議が採択されたことを歓迎するとともに、「初めての国際協同組合年から13年を経て、新たな国際協同組合年が宣言されたことは、アジェンダ2030(2030年までに持続可能な開発を実現することを目指す国際目標)を推進し、すべての人にとってより公正でより豊かな世界を築くための協同組合の力を、国連と各国政府が強く認識していることを証明するものです」と述べています。

●2025年の取り組みに向けて

この宣言は、協同組合の人間らしい雇用の創出、貧困と飢餓の解消、教育、社会的保護、金融包摂、手頃な価格の住宅、包摂的な社会の構築などへの貢献を支援することを求めています。社会開発における協同組合に関する2023年の国連事務総長報告の勧告にも協同組合の支援・振興を各国政府に求めています。

生活クラブ連合会からは、「日本協同組合連携機構」

(JCA)が設置した「2025国際協同組合年全国実行委員会」に村上会長を委員として参加します。また、実行委員会の下に置かれる幹事会にも役員や職員が関わっていきます。

●協同組合の発展と認知度向上の機会に

JCAに結集する協同組合全国組織はこの機会を最大限に生かし、協同・相互扶助の志をもとに地域課題の解決に力を尽くしている組織とともに活動をすすめます。

大枠として、①協同組合に対する理解を促進し、認知度を高めること、②協同組合の事業・活動・組織の充実を通じてSDGs達成に貢献すること、③地域課題解決のため協同組合間連携やさまざまな組織との連携を進めること、④国際機関や海外の協同組合とのつながりを強めることをすすめます。今後、さらなる協同組合のアイデンティティの発揮とSDGs達成への貢献に向けて「学び」「実践し」「発信する」取り組みをすすめていきます。

2025年の国際協同組合年は、1895年に設立されたICAの130周年でもあります。エスコープ大阪でも組合員や市民に協同組合を積極的に発信し、取り組んでいく予定です。

第2回
理事会報告 <8月7日>

【6月度決算報告】

- 供給高 2億4,768万円
(前年同月比105.8%) ※配達日数1日多い
- 組合員数 18,646名(前月比+105名)
- 一人当たりの出資金 92,401円

【7月の放射能検査結果】

7月は連合消費材624検体、関西消費材4検体の放射能検査を実施しました。エスコープ大阪供給分で生活クラブ自主基準を超えた検体はなく、すべての消費材を供給しました。

【決議事項】

- ①配送委託の導入について

【協議事項】

- ①「よやくる みかん」の登録推進
- ②2024年度組合員拡大活動の上期進捗と下期取り組み提案
- ③「気候危機フォーラム」まとめと「生活クラブでんき」取り組みについて
- ④共済加入推進の進め方
- ⑤店舗地域の泉北ニュータウン地域への統合
- ⑥「エスコープまつり」
- ⑦『豊共園』産直50周年取り組みについて
- ⑧下期以降の事務局体制
- ⑨労務管理の見直し(長時間労働の軽減)
- ⑩「大阪府生協連70周年企画」韓国視察参加について
- ⑪泉北ニュータウン地域の地域委員について
- ⑫関西青果政策(野菜)案への単協意見
- ⑬「原州協同社会経済ネットワーク」への訪問について

【報告承認事項】

- ①関西ワーカーズ・コレクティブ連合会の賛助会費拠出について
- ②2025年度第59回エスコープ大阪通常総代会について
- ③泉州地域委員会追加予算(予算外)
- ④大阪市南・中河内地域委員会追加予算(追加)
- ⑤新加入者対象24週間5%OFF取り組み
- ⑥「紀伊半島地域協議会」の今後の取り組みについて
- ⑦『立川胚芽精米』の包材変更について
- ⑧「菜食ファーム」の新規生産者の加入について

編集後記

お盆休みに地震南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が発表されましたが、何事もなく過ぎたのでほっとしていたところ、台風10号に関連する被害が各地で起こりました。自然は食べものやエネルギーなど様々な恩恵を私たちに与えてくれますが、時には私たちの暮らしや命を奪ってしまいます。防災への備えだけでなく、改めて自然に逆らわないような生き方をしたいと思いました。(Y)

発行:生活協同組合エスコープ大阪 制作:W.Co パックプランニング

生活協同組合エスコープ大阪

〒590-0151 堺市南区小代727

TEL.072-293-4660 FAX.072-341-0022

<https://s-osaka.seikatsuclub.coop/>



ワーカーズ・コレクティブ紹介

～誰もが安心して自分らしく暮らせる地域をめざして～

誰もが安心して自分らしく暮らせる地域を実現するには、地域で活動する団体との連帯は欠かせません。そこで、隔月で、エスコープ大阪関連のワーカーズ・コレクティブ(以下、ワーカーズ)に登場していただき、抱負などを語っていただきます。

ワーカーズ・コレクティブ
オアシス

(河内長野市)



ワーカーズ・コレクティブ オアシスのみなさん

自分らしい暮らしを
続けていくための
社会資源のひとつとして

「ワーカーズ・コレクティブ オアシス」(以下、オアシス)は1997年に設立。メンバーは現在25名です。

介護保険サービスには、同居家族との共有部分の掃除や大掃除、通院時の待ち時間の対応など利用できないサービスがあります。また、利用できる範囲を超えた部分は自費になつてしまいます。オアシスではそのような介護保険サービスでできない部分を補っています。以前は、子ども文庫の部屋を借りて子育て支援もおこなっていました。今は子育て支援は少なくなり、高齢者の支援がほとんどです。そのほか、草引きや犬の散歩などのお手伝いもしています。

オアシスのある河内長野市も高齢化が進んでおり、市や社会福祉協議会が主体となってリタイアした住民がボランティア活動に参加できる仕組みを作り、日常の困りごとを支援する住民主体による安価なサービスが各地区でおこなわれています。また、河内長野市は買い物難民が多く、買い物支援や通院支援を必要としている人のために電気カートを使った移動の仕組みなども整いつつあります。そのような社会資源(住民主体型のサービス)はたくさん必要です。そのひとつとしてオアシスを選択してもらえたらと思っています。

オアシスでは、ワーカーの高齢化が課題となっています。今の時代、若い人は稼働時間や収入面が見合わず、なかなか手になつてもらうのが難しい状況です。先日、ワーカーの研修で防災クッキングをしました。そのような研修等で、生協組合員や住民の方と交流する場を設け、もっとオアシスを知っていただきたいと思っています。ぜひ、次の世代につなげていけるようにしたいです。

独居高齢者世帯が増えていますが、多くの人が最期まで自分の家で今までと変わらない暮らしを続けたいと思っています。自分らしい暮らしを続けていくための社会資源のひとつとして、地域に必要なサービスを継続していきたいと思っています。

おたよりネット

「りっぷる」の感想やご意見、その他投稿は下の「おたよりネット」欄で。配達時に提出、あるいは店舗の専用BOXまで。

257号2面「『生活クラブでんき』は、電気を『つくる』つくった電気を『つかう』つくる人とつかう人を『つなぐ』」を読んで

紙面モニター Sさん

「生活クラブでんき」もみんなで利用して育てていく消費材であるとは考えていませんでした。今回の記事を読んで認知しました。無理のない節電や節電家電に買い換え、CO₂排出の削減に努めたいと思いました。そして、「生活クラブでんき」への切り替えも考えます。

キリトリ

Ripple おたよりネット

消費材の苦情についてはこの用紙でなく、電話またはメモで。この欄への投稿・ご意見は紙面でご紹介することがあります。

理事会事務局行き
260号(2024.9.23)

(ペンネームOK)

●地域名

●お名前

●組合員コード

●班名